地域のひろば

“安心と安全の福祉のまちづくりを”

府社協 地域福祉部
TEL.06(6762)9473／FAX.06(6762)9487

府域と市町村域の連携推進

地域貢献委員会 モデル事業を実施！

地域貢献委員会（施設連絡会）

これまでに府社協では、市町村域での社会福祉法人と地域とのつながり強化、地域福祉の推進を目的に、市町村社協が事務局を担う「地域貢献委員会（施設連絡会）」の組織化を進めてきました。また、府域全体として、社会福祉法人の強みを活かしたさまざまな地域貢献事業を展開する「大阪しあわせネットワーク」を推進しています。

今年度は、市町村域の地域貢献委員会と府域の大阪しあわせネットワークが連携し、地域の福祉力向上とセーフティネットの充実を図ることを目的に、連携推進モデル事業を実施。府内8か所で、子ども食堂の開催や地域連携マップの作成など、それぞれの地域課題に応じた取り組みが展開されています。

今回は、モデル事業を実施する吹田市と寝屋川市の取り組みについて紹介します。

吹田市社協施設連絡会

吹田市社協施設連絡会（以下、施設連絡会）は平成17年6月の設立以来、地区福祉委員会との協働・他種別施設の交流や研修の2つを活動の柱に、顔の見える関係づくりを丁寧に積み重ねてきました。平成28年度には、大阪しあわせネットワークとの連携・協力のさらなる推進を目的に「吹田しあわせネットワーク」が本格始動しました。

この取り組みをさらに充実させるため、今回のモデル事業を活用して、12月1日に、「地区福祉委員会との研修交流会」を開催し、施設から53人、地区福祉委員会から50人の、計103人が参加しました。

当日は、施設連絡会の武内慎吾会長の挨拶の後、特別養護老人ホームいのこの里の山本智光施設長から、生活困窮者への支援など制度のはざまの問題に対し、専門職が連携して支援した事例の報告がありました。

さらに、大阪しあわせネットワークの紹介や、吹田しあわせネットワークの施設種別を超えた情報共有・支援活動について話し「今後もさらに連携・協働による支援の輪を広げましょう」と呼びかけました。

また、跡見学園女子大学の鍵屋一教授による「災害時の福祉施設や地域の役割」と題した講演では、災害を取り巻く社会情勢の解説と共に、「日常から人間関係・近所関係を良好にし、誰も排除されない魅力ある地域を作ることこそが防災につながる」と語られました。

交流会では、地域別のグループに分かれ、研修を受けての感想や、減災・防災の取り組みについて活発な意見交換が行われ、参加者同士の交流が深まる機会となりました。

和やかな交流会のお土産は、障がい者施設のお菓子です。

参加者からは、「福祉委員や民生委員、自治会長が連携し、地域の困りごとをしっかり掘り起こして、吹田しあわせネットワークにつなげていきたい」「福祉に携わる者として、災害時に失敗は許されないという言葉が印象的でした。地域と連携して助け合うためには、普段の交流が大切だと思いました」等の声があり、施設と地区福祉委員会が日頃から連携・協働を進めることで、地域の防災力向上にもつながることを確認しました。

寝屋川市社協地域貢献委員会

寝屋川市社協地域貢献委員会（以下、地域貢献委員会）は、平成27年2月に、児童・高齢・障がいの施設種別を越えた46の社会福祉法人が参画して設立。各施設が協力できることを把握・共有しながら生活困窮者支援等の取り組みをすすめています。

今回のモデル事業を活用し、アクセスの良い駅前店舗内に、気軽に立ち寄ることができる地域の拠点『チョット寄ってん家』を設置。1月15日から3月23日までの期間限定で平日午後に開催し、保育園児と高齢者の作品展示、障がい者作業所等の手作り品販売、さらには保育園・認定こども園のスマイルサポーターや高齢者施設などの福祉専門職による総合相談を行います。

1月15日に開催したオープニングセレモニーには、北川法夫寝屋川市長をはじめ、多くの来賓、関係者が出席しました。地域貢献委員会の大西正禮委員長は挨拶の中で「児童・高齢・障がいの3分野が1つになり、それぞれの強みを活かした取り組みを進めたい」とモデル事業の意義を語りました。

また、亀井信昭副委員長は、「モデル事業の企画・運営を通じて、地域貢献委員会の会員法人相互のつながりや交流を深め、連携をすすめるとともに、次年度以降も継続して地域の福祉課題の解決に取り組んでいきたい」と意気込みを語りました。

今年度のモデル事業の実績をふまえ、次年度は事業を府域全体に広げていきます。市町村域での地域共生社会の実現をめざし、地域課題の解決に向けて地域・施設・社協が協働した取り組みを推進します。

実践！ 出会う・つながる 場づくり

岸和田市社協 コラボが元気を生み出す「市民活動ステーション」開催

参加者は、発表者の話に熱心に耳を傾けています。

12月16日、市立福祉総合センターで、市民活動を行う多様な団体による「市民活動ステーション」（愛称コラボラ※）が開催され、42人が参加しました。

この事業は、以前に「ボランティアサロン」の名称で開催されてきたボランティアグループ同士の交流事業を発展的にリニューアルしたものです。

地縁型組織や公民館の登録グループ、NPO法人、企業など、市民活動を行う団体に広く参加を呼びかけているところが特徴です。

事務局である岸和田市社協の本橋亜衣さんは、「岸和田のまちを元気にしたい人たちが、出会い、語り合い、つながり合うことで、実践者の課題解決や地域がより良くなることにつながれば」とねらいを語ります。

ボランティアによる実行委員会が企画から運営の中心を担い、当日は楽しく仲間をふやすコツをテーマにしたプログラムを設定しました。

活動発表者の一人、ボランティアグループ「ビスケット」代表の鈴木夏海さんは、グループの継続を意識した運営上の工夫について、話し合いを通じて活動ごとに役割・担当を決めること、メンバー間の絆づくりを大切にしている点を紹介。

また、若葉ヶ丘町自治会長の濱崎正信さんは、リーダーが走り過ぎないこと、みんなでアイデアを出し合い楽しむこと等のポイントが話されました。

その後の茶話会・交流会では、お互いの活動紹介や意見交換を行い、学びを共有し交流を深めました。

参加者からは、「しんどくならないように、楽しんですることが大切」「コラボできそうな団体をいくつか見つけることができた」等、次につながる確かなヒントが得られる機会となりました。

2月には、組織運営（人・モノ・カネ）をテーマに開催される予定です。ボランティアサロンから数えて111回を超える中、いきいきとした協働実践に、今後も目が離せません。

※コラボレーションとボランティアを重ね合せた言葉。毎回テーマを設定し、年間6回開催。

人との関わり方に悩む当事者やその家族の居場所に！ ハイフン ～みんなの和～（高槻市）

「ハイフン」は、ひきこもりや発達障がい者など、人との関わり方に悩んでいる当事者とその家族を支える居場所として、毎月第3火曜日に開催しています。

高槻市社協（以下、市社協）には以前からひきこもりや発達障がいのある子どもの家族から、気軽に集まれる場所がほしいという相談が多く寄せられていました。そこで、一般社団法人高槻ルーロー※の協力を得て、ゆったりとした気もちで参加し、仲間と関わることのできる居場所「ハイフン」を立ちあげました。ハイフンという名前は2つ以上の言葉をつなぐという意味をもつ記号にちなんでおり、人と人とが出会い、交流できる居場所となることを願って名づけられました。

会場には4つのスペースが設置され、事業所体験スペースでは福祉事業所のプログラム体験ができます。この日は近隣の本屋から譲り受けたPPバンドを使い、職員と試行錯誤を重ねながらコースターを作成しました。今までに点字が入った袋作りや組み紐作り、社会技能訓練の体験をしました。

交流スペースでは、他の参加者や職員と話やゲームを楽しみます。ハイフンでは「個人的な話は外部では話さない」、「話したくないときは『パス』ができる」といったルールがあり、人との関わり方に悩む参加者も気軽に会話を楽しむことができます。話題がなく会話が続かないときのために、お題が書かれたくじ引きも用意されています。

また、読書や数独を解くなど、一人でゆっくり過ごせるフリースペースや、常駐しているCSWが対応する個別相談スペースがあり、自分のペースに合わせて過ごすことができます。

「自分の話を聞いてもらえることに喜びを感じます」と、参加者は仲間や専門職との交流を楽しんでいるようすでした。

市社協の杓谷顕彰さんは「ハイフンが参加者にとっての居場所となることはもちろん、事業所や就労につながるためのステップアップの場としても活用してもらえれば」と話します。

今後は市社協や関係機関がもつネットワークを活用して、ハイフンが参加者と地域をつなぐ場となることをめざします。

※高槻ルーローとは 自閉スペクトラム症の成人の方やその家族が自分らしい生き方を学び合う研究会。当事者本人と家族が自己理解を深め、唯一無二の自分軸を見つけ「自分」を生きることを理念に研究を行っています。

PPバンドを使ったコースターの作成。周りと協力しながら作業を行います。